

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100220		
法人名	有限会社 エムズ		
事業所名	グループホームふきのとう北松園 1Fユニット		
所在地	〒020-0105 盛岡市北松園四丁目36番87号		
自己評価作成日	令和5年9月21日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念のもと入居者様、職員と共に日々笑顔で過ごせるように環境づくりをしています。また、生活リハビリのため食事の準備や片付け、洗濯物の片付けなど、利用者の皆様の個々の能力に合わせてできる事をして頂けるようにお手伝いをしています。コロナ感染症対策を一部緩和し、玄関先ですが対面での面会を実施しています。利用者の皆様を楽しませるための行事を毎月行っています。春は花見ドライブ、畑づくり、夏は夏祭り、秋は敬老会、冬はクリスマス会等です。職員の知識、技術向上のため研修会を行っています。毎月グループ全体の研修と隔月でGHの研修を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緑地が隣接している自然豊かな閑静な住宅地にあり、2階建ての建物の中に2つのユニットがあるグループホームである。付近には児童公園もあり、散歩等を気軽に楽しめる環境にある。「共に寄り添い、共に笑顔、その人らしく過ごすことのできる環境作り」とする運営理念と、「残存能力をひきだす介護」等の5つの介護理念のもとに、職員は様々なテーマの研修を重ね、利用者一人一人の気持ちや思いを大切に日々の暮らしを支えるとともに、利用者の残存能力を引き出すことができるよう家事等を一緒に行っている。運営推進会議では、委員から積極的な意見や提案が出されており、それらを事業所の運営に反映させながらサービスの質の向上に努めている。重度化した場合や終末期においても本人や家族と話し合う中で、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに掲示しており、定期的に申し送り時に理念の唱和を行い、日々のケアに取り組んでいる。	「運営理念」と事業所発足時に職員とも話し合っ て策定した「介護理念」を各ユニットに掲示し、申 し送り時に唱和し、理念の実践を確認している。 職員のグループ研修を定期的実施し、理念の 共有についても取り組んでいる。理念に謳われ ている「その人らしく過ごせる環境作り」を踏まえ た介護支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一人とし て日常的に交流している	自治会に加入している。	町内会に加入しており、運営推進会議に町内会 役員が委員となっている。町内会のお知らせや チラシで地域の情報を得ている。地域の保育所 や中学校との交流はコロナ禍のため中止してい る。地域包括支援センターが主催する「北松園認 知症見守り訓練」に事業所も参加し、助言等 を行っている。	利用者が地域で暮らし続けるための 基盤づくりとして、事業所が地域と交 流し地域に根ざしていることが重要で あることから、現在の取り組みに加 え、事業所を理解してもらえる情報や 認知症の基本知識などを町内会のお 知らせやチラシに掲載できるよう、町 内会との連携を深めることを期待した い。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方々に報告し、それぞ れの立場から助言や感想を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	入居者状況、活動報告、研修報告、事故報告等 報告している。メンバーの方々から地域の様々な 情報や意見等頂きサービス向上に活かしてい る。	家族代表や地域包括支援センター、民生委員、 町内会副会長を委員として、2ヵ月に1回開催して いる。事業所の活動状況を中心に活発な意見交 換が行われている。会議の議事録を職員に回覧 し、情報共有が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組み を積極的に伝えながら、協力関係を築くよ うに取り組んでいる	介護保険の申請、更新時の連絡と運営推進会議 の議事録の提出、事故報告を行い、関係づくりに 努めている。コロナ感染症発生時は感染状況の 報告と助言を頂くために密に連絡を取らせていた だいた。	地域包括支援センターとは密に連携を図り、情 報交換や相談を積極的に行っている。市の介護 保険課にも各種の申請や報告で、電話やメール のほかに職員が赴くことがあり、関係づくりに努 めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月ごとに委員会を開催している。研修は、年1回行い、全職員が拘束がもたらす弊害を理解し、また、スピーチロックなど意識して適切な介助で拘束しないケアに取り組んでいる。	施設長、計画担当者、管理者を委員とし、3ヵ月毎に委員会を開催するとともに、職員のアンケートで出されたグレーゾーンの課題検討を行い、研修等で対策を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も夜間だけ行い、日中は職員が見守っている。忙しい時に言葉を遮ったりすることも少なくなってきた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で年1回研修を行い、利用者が安心して生活ができるよう話し合い、意識し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行い理解している。現在、この制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に必ず、事前説明を行っている。契約書を十分に説明し疑問点を訪ね、理解して頂き納得された上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来所時は職員が丁寧に対応し、気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。難しかったのはコロナ感染症対策への意見要望であったが、どうすればいいのかと前向きに検討を行った。運営推進会議でも意見、要望を伺い運営に反映させている。	利用者の通院介助のため家族等が来所した際や、電話連絡をする際に意見、要望を伺うよう努めている。要望には、コロナ禍であっても利用者の外出や外泊を含め、家族との面会を求めるものが多く、要望を一部反映して事業所の玄関ホールでの面会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、ユニット会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させているが、個人面談が職員の一部しか行っておらず、職員の考えを集めきれしていない。	申し送り時やユニット会議の際に管理者が職員全体の意見や提案を聞いているほか、個人面談を行う際にも個別に意見や提案を聞いている。職員からは、コロナ禍での業務の見直しや改善要望が出されている。個人面談は、一部の職員に留まっていたが、今年度は法人の役員と施設長とで全職員から行うこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、勤務状況を把握し、昇給、賞与に勘案している。職員の考えや意向を聞き、職場環境の整備に努めている。希望休も可能な限り応えられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行っている研修を含め、月1~2回研修会を行っている。経験やスキルに応じて外部研修や資格取得に向け研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症対策の為行っていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや事前調査の際には、本人の要望、不安等を把握できるように努めている。本人のペースに合わせ、話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での様子や入居までの経緯を伺い、不安なことや要望、また介護疲れや様々な思いに寄り添い話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を伺い、必要時には担当ケアマネジャーとの相談をおすすめしている。また、緊急を要する場合は他の施設を紹介するなど柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が援助するだけでなく、一人ひとりの力に応じたことを日常的に食事の片付け等の家事と一緒にいき共に生活しているという関係を築いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を便りや電話でお伝えし、共に相談し意見を出し合い、できる事があれば積極的に家族に依頼し、本人が穏やかに生活ができるよう支えていく関係を築けるよう努めている。面会を玄関先だが対面で行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話で定期的に話せる日時を決めておくなどして利用者とその家族との関係が途切れないように支援している。	コロナ禍で家族との面会を行っていなかったが、現在は、玄関ホールでの面会を行っている。また、携帯電話や手紙でのやり取りを取り持つなど、家族との関係が継続できるよう支援している。また、定期的に訪問理容を利用しており、理容師と新たな馴染みとなっている利用者もいる。昔訪れたことのある高松の池や四十四田ダムにドライブに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように座席位置を考慮し、また利用者様同士、洗濯物の片付け等の仕事をしながらコミュニケーション出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこちらから様子を伺ったり、またご家族からの連絡で利用者の様子を聞くことができたりと関係が継続できるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時などの1対1になった時の時間で思いや希望を伺い、また日々の会話の様子や行動、表情から汲み取り記録し、またカンファレンスにて検討して職員全員で共有し日々のケアで活かしている。	言葉での意思疎通が可能な利用者からは日常会話から把握しているが、困難な利用者もおり、仕草や表情から一人一人の思いや意向を把握するよう努めている。把握した思いや意向は、職員で共有できるように、各ユニットに置いている「気づきノート」に記載している。散歩や食事に関する希望が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族やこれまで関わってきた事業所からも情報収集し、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個々のペースで生活できるように支援し、毎日の関わりを申し送りや気づきノート等で個々の現状の把握に努め、また、ミーティングでも話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	密にスタッフ間でカンファレンスを行っている。また、ケアミーティングや担当者会議、毎日の申し送りでの情報をもとにプランに反映し、また本人や家族の意向を確認している。医師、訪問看護師の助言も参考にして現状に合ったプランを作成している。担当者会議を集まって行いたいが出ていない。	計画作成担当者が居室担当者や記録ノート、毎日の申し送り等の情報をもとに6か月毎に見直している。原案が出来た段階で本人や家族の意見や要望を確認し作成している。必要に応じて医師等の助言も取り入れている。コロナ禍もあり、参集してのサービス担当者会議は行っていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや経過記録、気づきノートの活用で情報共有しケアに活かしている。3ヶ月ごとのモニタリングを実施し、必要時にはプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望により訪問看護、福祉用具、介護タクシー、理美容院などその時々生まれるニーズに対応しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	松園という地域資源としても恵まれた環境の中で本人が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は家族にお願いをしているが、家族の付き添いが難しい時は職員が行っている。定期通院等、主治医宛に受診連絡票を持参して頂き、また事情により主治医に連絡をして助言を頂いたり、適切な医療が受けられるよう看護師、ソーシャルワーカー等との連携を密にしている。	利用者の多くは入居前からのかかりつけ医を受診しており、家族の付き添いを基本としているが、職員が同行する場合もある。通院する際には、利用者の健康状態を記載した受診連絡票を持参してもらっている。受診結果は、医師から連絡がある時もあるが、家族からの聞き取りにより確認することが多い。通院が困難な利用者は、訪問診療を利用している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、週1回体調管理で訪問して頂いている。訪看ノートを活用し体調変化を細かく報告、相談、助言を頂き、状態により通院の判断や主治医へ報告されることもある。必要のある方は医療処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者様の情報提供を行い、入院中は、病院関係者と情報交換や相談を密に行い、必要であれば職員が面会に行き、医師、看護師より情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でグループホームでできる事、できない事と指針の説明を本人、ご家族へ行い、話し合い、意向を伺っている。状況に応じてその都度、意向を確認し関係者と連携を密に図り、支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針を作成するとともに、研修会を実施し職員の資質向上に努めている。入居時に本人と家族に事業所としてできる事、できない事等を説明したうえで意向を確認している。入居後についても利用者の状態の変化に応じて意向を確認している。昨年度は、医療機関の医師や契約している看護師の協力を得て1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回救急対応の研修を法人全体でおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した火災訓練、その他に年1回地震、風水害の対応方法についての確認と災害時のための備蓄の確認をしている。	火災を想定した避難訓練を利用者も参加して、年2回実施している。9月には火災を想定し日中に避難訓練を実施し、11月には夜間を想定した避難訓練を予定している。軽油の非常用発電機やガスコンロ、ランタン、非常食3日分を備蓄している。地域の自主防災組織との連携体制は構築しているが、具体的な役割等の取り決めまでは行っていない。	避難訓練を実際に薄暗くなる夕刻に職員だけでも実施し、夜間に避難する際の課題を把握するとともに、地域の自主防災組織とのより確かな協力関係を作るため、町内会と話し合い、訓練への参加を要請するほか、協力してもらいたい役割を明らかにして取り組んでいくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を傷つけないように一人の人間として向き合い言葉かけや対応を心がけている。特に言葉かけは「○○してよろしいですか?」と言うように気を付けている。接遇、プライバシーの研修を行い、振り返りも行っている。	入居者一人一人の人格を尊重するよう声のかけ方や言葉遣いに気を付けて対応するよう努めている。排泄、入浴、着替えの際にはカーテンやドアを閉めるよう努めている。また、排泄時には声かけ等に配慮しながら支援している。入浴時は異性介助を好まない人には、同性介助するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク後のお茶は「温かいのか冷たいのか」等、様々な場面で自己決定できるような声かけに努めている。思いを表せない方は、表情やしぐさ等から思いをくみ取り自己決定に近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなテレビ番組が終わる頃を見計らってお声がけする等、ご本人のペースに合わせ、希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類やヘアスタイルをお聞きして、職員の都合ではなく極力ご本人の好みに合わせた衣類を用意する。鏡を見ていただくよう声をかけている。イベントでは、お化粧を喜ばれたり、いつまでもおしゃれを楽しまれるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にいつも献立の紹介をしている。誕生会では本人のリクエストからおやつを考えたり、利用者の希望にて餃子作りをしたりと楽しんでいただけるように工夫している。いつも盛り付けや食器拭きを利用者と職員で行っている。	ご飯は職員が炊き、おかずと味噌汁は配食サービスを利用している。ひな祭りや誕生会などの行事の際は、利用者と一緒に餃子やホットケーキなどのおやつを作って楽しんでいる。利用者は、畑のトマト、枝豆、かぼちゃなどの収穫や、テーブル拭き、盛り付け、食器拭きなども一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせ、盛りつけ、形態、量などがえている。食事の様子を情報共有し、課題の改善に向けて話し合っている。医療面からも助言を頂きながら支援している。毎月、体重測定を実施している。こまめに水分補給を促している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し行っている。一人ひとりの状態に合わせて対応している。口腔内を観察し必要に応じて介助している。義歯は、洗浄液につけ、清潔保持ができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し失敗を減らすよう努めている。身体機能に応じた対応を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握様子を見てトイレ誘導したり、身体機能に応じた支援に努めている。誘導なしでもトイレで排泄できる利用者もいるほか、入居前には排泄に失敗していた人で、支援によりトイレでの排泄ができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、薬の影響などを理解し、対応等検討して予防に努めている。食事の工夫、水分摂取を促している。排泄困難時は腹部マッサージを施行している。また、体操に腹部マッサージを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はある程度決まっているが、希望を聞いて出来る限り利用者の気持ちに添えるようにしている。入浴中は、なるべく希望に添えるよう湯加減、空調に配慮している。会話を楽しみ、歌うこともあり入浴を楽しめるよう支援している。	基本的には、週3回午後4時に4人の利用者が入浴している。入浴中は、リラックスできるようにゆっくりと入ってもらっている。職員と利用者が1対1となるので、コミュニケーションを深める機会となり、楽しんで入浴できるよう支援している。異性介助を好まない人には、同性職員が対応するよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで休んで頂いている。休みたいと思った時に休めるよう状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し理解している。服用時は、必ず職員2名でダブルチェックを行い、飲み込むまでの確認を徹底している。薬の変更時で体調等で変化が見られた時は、主治医や訪看に相談して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりや一人ひとりの生活歴を把握して、畑の作業、新聞を読むなど楽しく気分転換ができるよう支援している。本人の気分によってやる、やらないを選択できるようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて散歩が日課となっている。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩するようにしている。また、玄関先での花の水遣りや花壇に花を植えたり、家庭菜園の野菜を収穫し楽しんでいる。春には高松の池や四十四田ダムに花見に、夏には地域の夏祭り会場周辺や高松の池にドライブに出かける等、外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、自己管理できる方はご家族の了承のもと所持していただいている。ご自分のお財布から床屋代の支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の使い方が分からなくなる利用者には着信が来たら通話できるように手伝い、会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で過ごされることが多く常に整理整頓に努め、清潔を保ち消毒も徹底している。室温、湿度、太陽光などにも配慮し居心地良く過ごせる空間を工夫している。	事業所内は、エアコン、パネルヒーター、加湿器で温度や湿度が快適に管理され、居間・食堂は、クリーム色と木彫の落ち着いた色調で、引き戸から光が入り、明るく落ち着いた雰囲気となっている。テーブルやソファ、テレビが備え付けられ、手作りの作品や季節を感じることができる装飾が飾られている。音楽が流れ、好きな時にお茶を飲むことができ、思い思いの場所で過ごすことのできる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になったり足を伸ばしたりできるソファがあり、交流ホールで景色を眺めるなど思い思い好きな場所で過ごしていただけるよう工夫している。広い空間を活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に努めている。ご本人の馴染みの物、家族写真を飾ったりしている。テレビを置かれている方もおりご自分の時間を大切にして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	エアコンやパネルヒーター、ベッド、タンス、クローゼット等が備え付けられている。入居前に使っていた馴染みの物や家族写真、椅子、収納ケース、テレビ等が持ち込まれ、カレンダーやお誕生カードが飾られた居心地良く過ごせる居室となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害となる物などは、その都度片付け、お手伝いをしていただくなど利用者様の意向や行動を妨げないよう環境整備をしている。		